



特集 Special Feature

イツモ

365日地震に備える

— キモチが変われば災害時の行動が変わる —

1月1日、最大震度7の巨大地震が能登半島を襲いました。約5カ月経った今でも3400人を超える人が避難所生活を送っており、2100戸以上で断水が続いています。(「石川県ホームページ」より…5月23日時点)

4月17日には豊後水道地震が発生し、愛媛県と高知県で最大震度6弱を観測しました。内子町では震度5弱の揺れが起こり、今まで経験したことのない大きな揺れに危機感を感じた人も多かったのではないのでしょうか。

自然の猛威は私たちの想像をはるかに超えてきます。大地震は私たちのまちでもいつ起こるか分かりません。今回の特集では、災害派遣に参加した職員が被災地で感じた思いから、私たちはどんな備えが必要なのか、一緒に考えたいと思います。



7



8 6



2 1



元日の家族だんらんを襲った 震度7の大地震

内子町からは1月29日～5月1日までの期間中に、8人の職員が石川県輪島市に災害支援へ向かいました。職員は被災地でどんな光景を目の当たりにし、支援活動で何を思ったのか——写真とインタビューで伝えます。

義援金箱を設置しています

集めた義援金は日本赤十字社を通じて、被災地の皆さんの支援に役立てられます。皆さんのご協力をお願いします。

●設置場所 役場本庁、内子分庁、小田支所、各自治センター

●受付期限 12月27日(金)

詳細はこちらから▶



1_横倒しになったビルが揺れのすさまじさを物語る 2_道路に入った大きな亀裂 3_珠洲市でも多くの木造住宅が倒壊した 4_地震の影響で、道路上に1mほど隆起したマンホール 5_大きく崩れた山の斜面 6_観光名所「朝市通り」は地震による火災で広範囲が焼失した 7_倒れた建物につぶされた車 8_炊き出しの支援があり、職員も食事の配膳などを手伝った 9_支援先の避難所の様子



9



5 4



3

Interview



総務課 危機管理班
林 隆太郎さん

派遣期間 1月29日～2月7日

支援活動の経験をまちの防災力に——

輪島市に到着したのは発災の1カ月後。支援活動をした避難所には、約150人が生活していました。支援物資は十分にあり、電気も復旧していましたが、水道は使えず、特にトイレが不便。個人のスペースは畳一枚ほどしかありません。しんどい避難生活にみんなが疲れ切った表情をしていました。また別のところでは小規模で普段からつながりのある人たちが多く集まる避難所がありました。自分たちでも運営に関わり、掲示板に励ましの言葉が書かれていたり、つらそうな人がいたら声をかけたりと、少しでも心とらぐ場所にしたいという思いが伝わってき

ました。困難な状況で人の心を救うのは、人の温かさだと感じました。普段からの近所の人との交流は災害時に支えなることも学びました。家に帰り、妻と娘に「おかえり」と言われた時は涙が出そうになりました。大切な人が生きていること、水が使えること——。当たり前と思っていた日常に感謝したいです。被災地では今も避難生活を続ける人たちがたくさんいます。この地震の記憶を忘れないこと、痛ましい災害が繰り返されないよう備えることが、被災地のためにもなると信じ、支援活動で感じたことを身近な人やまちの人たちに伝えたいです。

Interview



建設デザイン課 上下水道対策班
山田 琉聖さん

派遣期間 3月11日～3月20日

被災地を離れても、心を寄せ続けたい

大きく波打つ道路、ペシャんこになった家や車、焼け野原になったまち——。被災地で目にした光景は、あまりにもショックで言葉を失いました。一瞬で日常を奪われた人たちの気持ちを想像すると胸が痛かったです。私が向かった支援先は約40人が避難する公民館。10日間の支援活動では、避難者の皆さんと話す機会も多かったです。会話の中では「家がつぶれた」「火事で友達を失った」という、つらい胸の内を聞いたこともあります。避難者の皆さんは、一人では耐えられないような痛みや不安を抱えながら、それでも互いに助け合い前を向こうと

していました。その姿を見て、少しでも役に立ちたい、どうしたら力になれるのか考えながら支援を続けました。避難者の一人とは今も連絡を取り合っていて、少しずつ復興が進んでいることを教えてくれます。4月に内子町で大きな地震があったときには「大丈夫？」と連絡をくれました。誰かを心配する余裕もないくらい大変なはずなのに——。私を気遣ってくれる気持ちがうれしかったです。心を寄せてもらうだけで励まされることを知りました。またいつか輪島市へ行って笑顔で再会できる日を願い、私も遠く離れていても心を寄せ続けたいです。



能登半島地震で倒壊した住宅

1 木造住宅耐震診断・改修補助

内子町は地震災害に備えるため、木造住宅の耐震診断や耐震改修工事費用の補助を行っています。地震や強風で屋根瓦が落ちたり飛んだりする被害を軽減する耐風改修もあります。ぜひご利用ください。

①まずは耐震診断！



「木造住宅なので、とりあえず耐震診断をしてみたい」という人には、町が委託する事業者から耐震診断技術者を派遣します。耐震診断料は町が負担します。評価料の3,000円または9,900円は自己負担となります。

②評点が1.0未満の場合

耐震診断の結果、耐震性を表す総合評点が1.0未満の場合は、大地震で建物が倒壊する可能性があります。診断書から建物の弱点が見えてきますので、その弱点を改善するための「耐震工事」をご検討ください。



Check

木造住宅耐震改修補助の詳細

●対象となる木造住宅

- 次のいずれにも該当する住宅
 - ▷昭和56年5月31日以前に着工された住宅で、2階以下・延べ面積500㎡以下のもの(店舗併用住宅も含む)
 - ▷耐震診断の結果、総合評点が1.0未満で、改修後1.0以上となる住宅(段階的改修は0.7以上)
- ※耐震改修に伴う瓦屋根の耐風改修も可能。

●補助の対象 対象住宅の所有者

●補助金の額

| 項目 | 補助限度額 | 補助率 |
|------|--------|-------------------|
| 耐震設計 | 30万円 | 対象経費全額 (消費税除く) |
| 耐震工事 | 120万円 | |
| 工事監理 | 6万円 | 工事費の23% |
| 耐風改修 | 55.2万円 | |

小規模な耐震にも対応

《段階的改修》

評点0.7にまで改修する場合、工事費用の60万円まで全額補助します。

《耐震シェルター》

住宅内の一部を強固な空間(シェルター)にすることもできます。その場合、工事費用の40万円まで全額補助します。

2 老朽危険空き家除却費用補助

老朽化した空き家が地震で倒壊し、避難路をふさぐなどの危険を減らすため、その除却費用の一部を補助しています。

●対象となる空き家

- 次のいずれにも該当する住宅
 - ▷住宅の不良度判定により、内子町の基準で不良住宅と判定された空き家
 - ▷倒壊により沿道をふさぎ、避難に支障を来す恐れがある空き家

れがある空き家

●補助の対象 空き家の所有者

●除却業者 町内で建設業の許可(土木、建築、解体)を受けたもの、または解体工事業の登録を受けたもの

●補助金の額

補助対象経費の5分の4以内(上限80万円)
※詳細はお問い合わせください。

いつも備える

もし今揺れたら、あなたの家は大丈夫？

南海トラフで今後30年以内にマグニチュード8～9級の地震が発生する確率は、80%程度といわれています。大地震が起こったとき、あなたの家は揺れに耐えることができますか。まずは家の安全対策に目を向けてみてください。

能登半島地震では多くの命が 家屋倒壊の犠牲に

能登半島地震では、多くの人が倒壊した家屋の下敷きになり、命を落としました。被害の大きかった地域は、高齢化率が高く、耐震化が進んでいない古い木造住宅が多かったそうです。激しい地震の揺れに耐えられず、倒壊が相次ぎました。

内子町で大地震が起きたら 6050棟が全壊・半壊

内子町にある木造住宅のうち半分以上にあたる約5700戸は、昭和56年以前に建築され、現在の耐震基準を満たしていません。「南海トラフ巨大地震」が発生した場合、愛媛県を最大震度7の揺れが襲うと予想されており、内子町では1863棟が全壊、4187棟が半壊すると予測されています(「内子町地域防災計画」より)。

町の補助制度を活用してほしい

建物の倒壊は住む人の命を奪うだけでなく、火事などの2次災害の原因にもなります。内子町では地震対策の補助をしており、7.8ページで紹介しています。自分や家族の命、地域を守るためにも、まずは耐震診断を受けることから始めてみませんか。

耐震診断を受けた人にインタビュー

自分を守るのは自分自身



土居 由紀子さん
(72) = 福岡 =

町外で暮らす娘が私を心配し、家の耐震診断を役場に申し込んでくれました。4月に起きた地震は本当に怖くて、心細かったです。いざというときに安心できる場所が必要だと感じました。家全体の工事には大きな費用がかかるので、寝室だけでも耐震しようと「耐震シェルター」を希望しています。家にいる時に揺れたら、すぐ寝室に駆け込むつもりです。「あの時、準備していたら」と後悔しないよう、娘のためにも今できる対策をしたいです。

もしものときに家を頼れる場所にしたい



阿部 健雄さん
(83) = 石畳8 =

私と妻が住む家は築150年以上。修繕しながら代々、大事に住んできました。能登半島地震の報道を見て、自分の家が心配になりました。家が崩れたら難儀でたまりません。高齢なので逃げ遅れないか、命が助かって避難所での生活に耐えられるのか、不安です。生まれてからずっとこの家に住んできたから、愛着のある石畳で最後まで妻と一緒に生きていきたい。もし被災しても家が無事ならここで生活できるので、耐震工事を前向きに考えています。

家具が「凶器」になる前に 今すぐにしたいたい部屋の安全対策

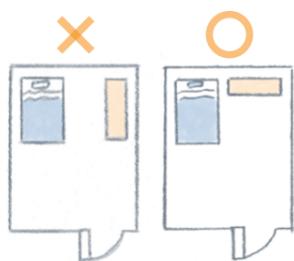
大地震では、たんすや冷蔵庫などの背の高い家具や家電が倒れたり、テレビなどの重いものが恐ろしい勢いで飛んできたりすることがあります。

大きな揺れの瞬間は何もできません。転倒防止の対策や配置変えをするだけでも違うので、今から備えておきましょう。



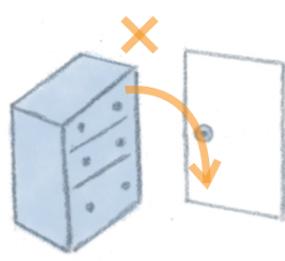
【物の飛び出しを防ぐ】

引き出しや扉が開いて中身が飛び出してこないように、「飛び出し防止器具」を使う



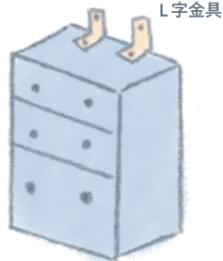
【家具の配置を工夫①】

寝ているところに家具が倒れてこないように、家具の向きや位置を変える



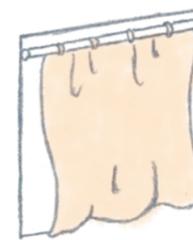
【家具の配置を工夫②】

廊下や部屋の出入口付近など、避難の妨げにならないよう、家具の向きや位置を変える



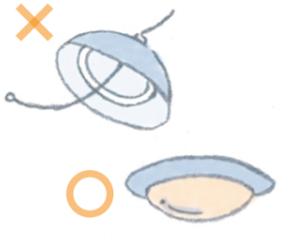
【家具の転倒を防ぐ】

L字型金具や突っ張り棒、ベルト式金具などの家具転倒防止器具で動かないように固定する



【カーテンで飛散防止】

カーテンや飛散防止フィルムで、割れたガラスの破片が部屋に散らばるのを防ぐ



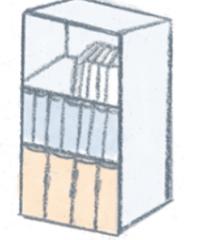
【照明の落下を防ぐ】

吊り下げ式の照明は揺れに弱く落ちやすいので天井に固定する。天井直付式のもがおすすめ



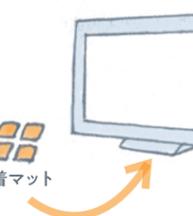
【本の落下を防ぐ】

本が飛び出してこないように本棚に留め金をする。落下抑制シールを棚板面に貼るのもいい



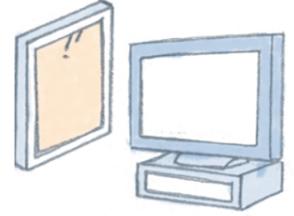
【重い本は下に置く】

図鑑や辞書などの重い本は下段へ、軽い本は上段へ置く。重心が下になるように工夫する



【テレビを固定する】

テレビは動かないように、専用の器具で固定したり、粘着マットを敷いたりする



【窓を守る配置にする】

テレビなどの家電は窓ガラスの近くに置かない。倒れても窓ガラスに当たらない方向に置く

CHECK

住んでいる家の災害リスクを知る

自分が住んでいる場所にどんな災害のリスクがあるのか把握しておくことも大切です。内子町防災マップは各自治会単位のものがあり、災害時の避難場所や、土砂災害などの危険区域を示しています。

詳細はこちらから▼

ここで紹介したものは一例です。部屋を見て、どんな危険が考えられるか想像しながら対策してみてください。安全対策に使う器具の定期点検も忘れずにしましょう。

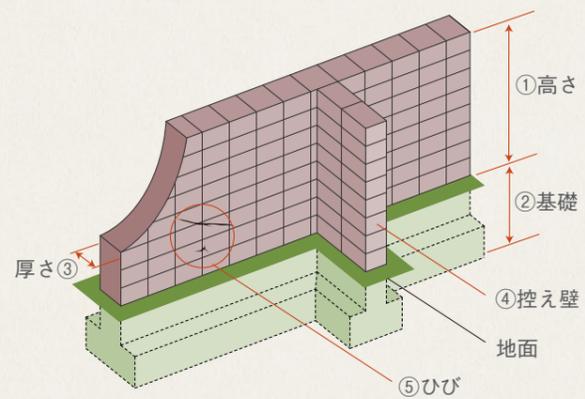
3 ブロック塀などの安全点検をしよう

大きな地震が発生すると、建物だけでなく塀などが倒れ、大きな被害につながる場合があります。特に道路沿いにある塀が倒れると、通行人などに危険が及ぶ他、緊急車両の通行に支障を来し、避難や救助の妨げとなります。

ブロック塀などの安全確保は、所有者の責任です。危険を未然に防ぐため、自宅の塀の安全点検を、下記を参照に行ってください。1つでも「○」が付かない項目がある場合は、速やかに専門家に相談し、除却や改修を検討してください。

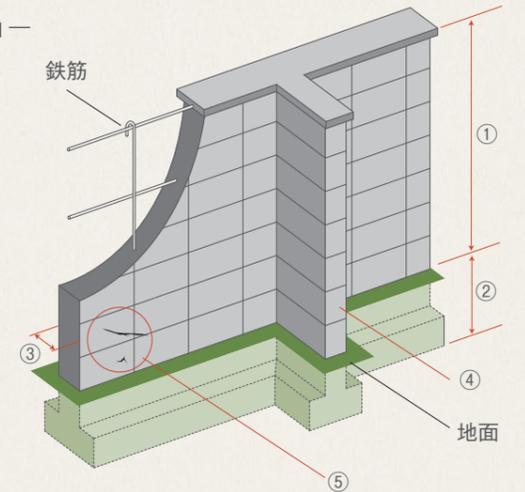
Check

全部○が付きますか？—あなたの家の塀の「安全点検チェック」—



●れんが・石・鉄筋のないブロックの場合

- ①塀の高さが地盤から1.2m以下になっている
- ②深さが20cm以上の基礎がある
- ③塀の高さの1/10以上の厚さがある
- ④4mごとに③の1.5倍以上の長さの控え壁がある
- ⑤塀に傾きやひび割れがない



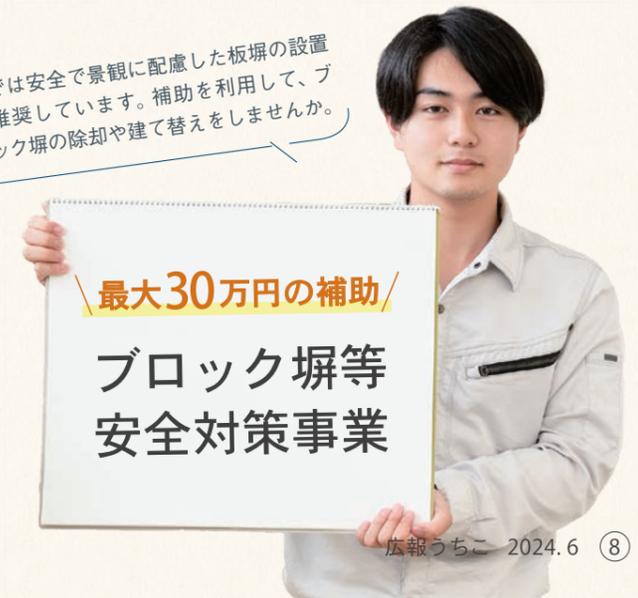
●鉄筋のあるブロックの場合

- ①塀の高さが地盤から2.2m以下になっている
- ②深さが30cm以上の基礎がある
- ③塀の厚さが10cm以上ある(①が2m以上は15cm)
- ④3.4mごとに①の1/5以上の長さの控え壁がある
- ⑤塀に傾きやひび割れがない

【補助の概要】

- 対象者 町内のブロック塀などの所有者
- 補助対象物件 避難の際に使用する道路沿いにあるブロックやれんが、石などで作られた塀で、内子町の基準で危険と判断されるもの
- 補助対象経費 ブロック塀などの除却・板塀などへの建て替えを行う工事に係る経費
- 補助額 補助対象経費の3分の2以内。上限は30万円。ブロック塀などの延長1mにつき8万円を限度額とする

町では安全で景観に配慮した板塀の設置を推奨しています。補助を利用して、ブロック塀の除却や建て替えをしませんか。



●南海トラフ巨大地震で想定される、内子町のライフラインの被害と復旧までの期間

※「内子町地域防災計画」より

| | 上水道 | 下水道 | 電力 | 固定電話 |
|------|-----------------|------------------|-----------------|----------------|
| 発生直後 | 80.3% | 92.6% | 100% | 100% |
| 1週間後 | 断水する割合 61.7% | 支障が出る割合 28.2% | 停電する割合 67.4% | 不通の割合 27.9% |
| 1カ月後 | 14.6% | 0.6% | 6.2% | 16.8% |

いつも備える 防災グッズ

CHECK 2



大災害が起きて電気やガス、水道などのライフラインが止まったとき、命をつなぐのは自分自身。ここで紹介する防災グッズは危機管理監の泉清一さんと選びました。各家庭や人によって必要なものは変わるので、チェックリストを参考にしながら準備してみましょう。

防災ポーチ



出先で被災したときに役立つ物をコンパクトに詰め込み、毎日持ち歩くバッグに入れます。

- 菓子
- 飲み物
- 現金
- 小型のLEDライト
- モバイルバッテリー
- マスク
- 除菌シート・スプレー
- レスキューシート
(保温素材で作られた薄手の防寒用シート。防水・防風にもなる)
- ホイッスル
- 常備薬

《+自分に必要なもの》

-
-

非常用持ち出しリュック



避難するときに持ち出すものです。すぐに持ち出せる場所に置いておきましょう。3日分を目安に準備し、自分が背負える重さか確認してみてください。

- 水 (500ml×3本程度)
- 手間なく食べられる食品
- 携帯トイレ×24回分
- LEDライト・ランタン
- モバイルバッテリー
- マスク
- 常備薬
- 保健証のコピー
- 現金 (公衆電話用の10円玉も)
- 歯ブラシ (歯磨きシート)
- 除菌シート・スプレー
- 簡易式マット
- 手回し充電ラジオ
- 乾電池
- レインコート
- 軍手・手袋
- カイロ
- 電池式の扇風機
- ヘルメット (頭を守るもの)
- 上履き・スリッパ
(ガラスが割れても歩けるよう、寝室などの近くにも置いておく)
- 応急手当セット
(ガーゼ、包帯、ばんそうこう、消毒液など)
- 保湿クリーム
- 筆記用具・メモ帳

《+自分に必要なもの》

-
-

家に備えておく非常備蓄品 (大人1人7日分の場合)



避難後の生活を支えるものです。できれば1週間分を備蓄しましょう。食品は普段の食品を少し多めにストックし、賞味期限の近いものから食べて、食べた分を買い足すのがおすすめです。

- 水 (500ml×42本)
※1人1日3リットル程度 (飲み水・調理用の水)
- カセットコンロ・ボンベ
※1人1週間6~9本程度
- LEDライト・ランタン
※1人1灯と1部屋に1灯 (LEDなら長持ちし、明るい)
- モバイルバッテリー
※1個以上 (電池式など停電時に使えるもの)
- 乾電池
(ライトなどの機器に合わせてサイズ・本数を確認)
- 携帯トイレ×56回分
※1人1日およそ8回程度 (トイレトーパーも準備)
- 手回し充電ラジオ
- 石油ストーブ
- カイロ
- 電池式の扇風機
- タオル
- 着替え
- ミルク
- オムツ
- 生理用品
- 乾麺 (600g×2袋)
※そうめん、パスタなど
- パックご飯×9個
- 缶詰 (肉・魚)×9缶
- レトルト食品×9袋
(丼の素やカレー、パスタソースなど)
- 即席スープや野菜ジュース
- 果物缶や菓子

《+自分に必要なもの》

-
-
-
-
-
-
-
-

CHECK

食欲が湧くもの、好きなものも取り入れて

非常時は食欲がなくなることもあります。心身に活力を与えるためにも、おいしさや栄養、楽しさも大事にし、好きなものや食べたいものも備蓄に取り入れてみてください。

命は自分で守るしかないのです。いつ起こるか分からない災害への備えは、ついつい後回しにしてしまいがちかもしれません。でも「いつ起こるか分からない」ということは、「今日起きてもおかしくない」ということです。普段から隣近所の人とあいさつをする、寝室に上履きを準備しておくなど、日々の暮らしの中で備えることができれば、いざというときに私たちを助けてくれます。自分の命を守ることでできれば、誰かを助けに行きこともできます。備蓄に余裕があれば、困っている人に分け与えることもできます。災害に備える人が多いほど、まちの防災力を高めることができます。

4月に発生した「豊後水道地震」では、内子町で震度5弱の揺れを観測。夜中に起きた、立っていられないほどの大きな揺れに、怖い思いをした人も多かったと思います。幸い内子町では大きな被害はなくて済みましたが、どうか「何もなくてよかった」で終わらせないでください。「ちゃんと準備していたら」と後悔しないよう、怖かった記憶が薄れる前に、できる備えを始めてください。

今

大地震が起きたら、これから何日も携帯電話がつかず、電気や水が使えなくなったら——あなたは自分や家族の命を守れますか。能登半島では大地震が30年以内に起きる確率は数%といわれています。しかし、あれだけの大地震が起こったのですから、南海トラフ巨大地震の80%程度という確率が、どれほど高いのかが分かります。巨大地震が発生すると思えば、中部地方から九州地方まで、甚大な被害が出ると予想されています。公的な支援物資はすぐには届かないかもしれませんが、消防署や役場などの公助もあてにはできません。自分の

大地震を想像し、日常から災害に備えて



総務課 危機管理班
危機管理監 泉 清一さん